

頑張る

農業法人

舞鶴市与保呂(よほろ)地区の常、木ノ下、与保呂の3集落で組織していた与保呂三字営農組合が法人化に取り組み、今年1月に(株)よほろファームを設立した。法人設立と併せて同市初となる府の「京力農場プラン」を作成し、農地集積や新規就農者の育成に取り組み。

農作業受託や米、小豆などの栽培で高齢化が進む中、耕作放棄地の解消に努め、地域農業を担う組織として期待されている。

同地区は市南東部に位置し、水がきれいな与保呂川が流れ、3集落で約1000世帯のうち農家が約200戸の農山村地帯。
1995年に3集落で

42畝の圃場(ほじょう)整備が行われたことを契機に、農地を守るため営農組合を立ち上げた。農作業受託や水稻、小豆を栽培してきたが、農地の

利用権取得や後継者確保、補助事業の活用などを目指し、J A京都にくにやJ A京都中央会行政などの指導で法人化を検討してきた。営農組合を解散して組合員70人と地区外転出者も加わり、107人の出資で同社の設立に踏み切った。役員は代表取締役社長の木下千尋さん(79)と取締役5人、監査役2人。農繁期にオペレーター17人を臨時雇用する。

法人化と並行して地域農業の目指す姿の話し合いを進め、同社が地域の中核的担い手となり、休

株式会社よほろファーム 舞鶴市



導入したコンバインを背景に頑張る木下社長(後左3人目)と役員、スタッフら

耕作放棄地全て解消

耕農地の集積や特別栽培米の生産、新規就農者の育成を盛り込んだ「京力農場プラン」を今年3月
に作成し、「京力農場づくり事業」により大型コンバインと小豆播種(はしゅ)機を導入した。
集積した農地でJ Aが取り組む特別栽培米3・1畝、「コシヒカリ」4・6畝、もち米77畝の他、

新規就農者育て特産栽培も

J Aが京都市内の老舗和菓子店と契約販売する小豆「小倉大納言」を3畝で栽培する。20戸の農家から5・6畝の田植えと稲刈りの農作業受託を行う。こうした取り組みにより、耕作放棄地を全て解消した。

さらに45戸で市民農園を開設して、消費者との交流により地域活性化にもつなげている。

木下社長は「法人が支援することにより、地元農家が新規就農者の受け入れや、特産『万願寺甘とう』の栽培にも取り組むことができている。J AのT A Cの指導で小豆栽培を取り入れ、収入も見込めるようになった。生まれればかりだが経営を軌道に乗せ、地域の期待に応えられるよう育てていきたい。」と話す。

▽法人所在地 舞鶴市木ノ下271(木下社長宅)。携帯電話 090(4649)9045。